

一球通信 vol 145

*****コンテンツ*****

1. 春季リーグ戦 後半 戦績
2. 新入部員紹介
3. 2019年特集・広商交流50周年に寄せて

〔1〕OBOGより

1) 高野敏行様 (H10年卒)

〔2〕プレーバック交流史

I) 金光興二様 (広商49年卒)

1. 春季リーグ戦後半戦績

○5/4 vs 都市大 ○5-4

| | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一橋 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 5 |
| 都市 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 |

【投】木下（8回）→鈴木（1回）

〔本〕阿部（7回スリーラン）

〔二〕大北 木村

○5/11 vs 東工大 ○5-3

| | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一橋 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 5 |
| 東工 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |

【投】木下（4回）→佐藤（2回）→鈴木（3回）

〔二〕阿佐美 大北 高崎 江角

○5/12 vs 東工大 ○1-8

| | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 東工 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 一橋 | 0 | 2 | 0 | 1 | 1 | 4 | 0 | 0 | × | 8 |

【投】木下（7回）→鈴木（2回）

〔三〕江角

○5/18 vs 都市大 ●4-5

| | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|
| 一橋 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 都市 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2× | 5 |

【投】木下（3回）→佐藤（4回）→鈴木（1/3回）→綾野（1、1/3回）

〔二〕阿佐美

○5/19 vs 都市大 ○6-8

| | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 都市 | 3 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 一橋 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 | × | 8 |

【投】木下（4、2/3回）→佐藤（4、1/3回）

〔本〕富澤（4回スリーラン）

以上、前半と合わせて全9試合7勝2敗、4部優勝で春季リーグ戦を終えました。

この結果、入れ替え戦出場が決定致しました。入れ替え戦は6月24・25日を予定して

おります。

試合詳細はこちらから（東都大学野球連盟 HP）↓

<http://www.tohto->

[bbl.com/gameinfo/schedule.php?YEAR=2019&SEASONID=01&LEAGUEID=04](http://www.tohto-bbl.com/gameinfo/schedule.php?YEAR=2019&SEASONID=01&LEAGUEID=04)

2. 新入部員紹介

今年度は 10 人の選手と 4 人のマネージャー、計 14 名が野球部に入部いたしました。すでに実践練習に加わっている選手もいます。上級生に負けず、1 年のうちから活躍してほしいと思います。

●プレイヤー

池田健太郎

出身校：東京学芸大学附属

生年月日：2000 年 4 月 28 日

希望・経験ポジション：外野手

投打：右投右打

社会学部 1 年の池田健太郎です。自分は高校時代、最後の大会で結果を残すことができず心残りとなっていたので、その悔しさを晴らせるように頑張っていこうと思います。

大田響介

出身校：小石川中等教育学校

生年月日：2000 年 6 月 29 日

経験・経験ポジション：ショート(ピッチャー)

投打：右投右打

坂本勇人の大ファンで、暇さえあればプレー集を見ているほどです。自分は軟式出身でまだまだ同期にも先輩にも到底及びませんが、いずれは一橋の坂本勇人と呼ばれるまでになれるよう精進します。よろしくお願ひします。

五井晴己

出身校：福井県立藤島

生年月日：2000 年 9 月 25 日

経験・希望ポジション：セカンド

投打：右投右打

高校では、チーム・個人共にあまり良い結果を残すことができなかつたので、大学では結果にこだわっていきたいと思っています。まずは 3 部昇格に向けて、自分にできることに精一杯取り組みます。4 年間よろしくお願ひします。

畠山 駿平

出身校：都立国立

生年月日：2001年2月25日

希望・経験ポジション：内野手

投打：右投左打

試合で活躍できるようがんばります。応援よろしくお願ひします。

藤田 和志

出身校：県立柏陽高校（神奈川）

生年月日：2001年1月7日

経験・希望ポジション：投手

投打：右・右

新入部員の藤田です。高校では膝の手術で1年の秋以降は野球が出来ず、不完全燃焼だったので大学野球をしようと思いました。肩に自信があるのでブランクは長いですが焦らず身体作りから頑張って、140km 投げます。

本田啓将

出身校：千葉県立船橋高校（千葉県）

生年月日：1999年12月22日

経験・希望ポジション：外野

投打：左投左打

ほんだけいすけです。名前のインパクトに負けないように日々精進しております。自分は背が小さい方ですがしっかりトレーニングをして、この身体からは想像できないようなプレーをしていきたいです。これからよろしくお願ひします。

藤本健太郎

出身校：熊本高校

生年月日:2000年8月8日

経験・希望ポジション：投手

投打:左投左打

熊本から来ました、商学部の藤本です。高校時代の野球がとても楽しく、続けたいと思ったので入部しました。チームが勝つために精一杯自分のできることを頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

三家本直希

出身校：川和高校

生年月日：2001年3月21日

希望・経験ポジション：ショート、ピッチャー

投打：右投右打

1年の三家本直希です。ポジションはずっとショートでした。東都大学リーグの高いレベルの野球に惹かれて野球部に入りました。1年から試合に出て活躍できるよう頑張ります。

本吉晃一郎

出身校：千葉市立千葉高校

生年月日：1999年2月18日

経験・希望ポジション：外野

投打：右・右

高校の時は公式戦で1勝もできずとても悔しい思いをしたので、大学では結果を残し、チームを引っ張る主力選手になります。3部昇格、そして3部優勝を目指し日々努力していきます。

持丸航毅

出身校：都立桜修館中等教育学校

生年月日：2001年2月19日

希望・経験ポジション：ピッチャー

投打：左投左打

持丸航毅と申します。高校で野球部を引退して硬式野球を辞めることも考えましたが、一橋大学に入学して今までよりも高いレベルで野球ができる環境に魅力を感じ、入部を決めました。今までの野球人生で学んだことを生かし、一橋硬式野球部で活躍できるように努力していきます。

●マネージャー

内海和音

出身校：宇都宮短期大学附属高校

生年月日:2000年7月14日

はじめまして、社会学部1年の内海和音です。マネージャーとして硬式野球部の一員となれたこと、とても嬉しく思っています。チームのために何をすべきかいつも考えながら、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるように、そして少しでも勝利に貢献できるように、精一杯取り組んでいこうと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

小林未希子

出身校：渋谷教育学園幕張高校(千葉県)

生年月日：1999年9月14日

今年度、マネージャーとして入部しました小林未希子です。中高テニス部に所属していましたが、野球は全くの初心者です。野球の当たり前を知らないがために練習で足を引っ張ってしまうことがあるかと思いますが、部に貢献できるマネージャーになれるよう努力します。よろしくお願いいたします。

古川真穂子

出身校:富士見高校

生年月日:2000年10月25日

今年度マネージャーとして入部しました商学部一年の古川真穂子です。中高時代は吹奏楽部で、マネージャーをやるのは初めてですが、チームの力になれるよう精一杯頑張りたいと思います。これからよろしくお願いいたします。

三浦美咲

出身校：明善高校(福岡県)

生年月日：2000年8月2日

マネージャーとして入部しました三浦美咲です。父や兄の影響でよく野球観戦をしていたので野球は大好きです。今回、一橋野球部の一員になることができ、とてもうれしく思います。4年間、チームの力になれるようがんばります。よろしくお願いいたします。

.....

2. 2019年特集・広商交流50周年に寄せて

〔1〕OBOGより

1) 高野敏行様 (H10年卒)

〔2〕プレーバック交流史

I) 金光興二様 (広商49年卒)

.....

「広商で得たもの」

平成10年卒 高野敏行

私のはじめて広商の合宿に参加したのは、2年生の夏でした。

広商と言えば、「冬」のイメージが強いですが、私が1年生の冬は、実施されず、、(理由は忘れまし)

三商戦に向けて神戸入りする前、たしか3泊4日の日程で行われました。

合宿の内容は、ダブルヘッダーのオープン戦。それが2日間、合計4試合です。

投手だった私は、この頃から、試合での登板機会を与えていただけようになっていました(1年生の時、実戦登板は全くありませんでした)。

三商戦で登板する上級生に負担をかけない意味もあったのでしょう、私には2試合先発のチャンスが与えられ、それぞれ5イニング投げました。当時の私は、速球にはまったく自信がなく、というより、球を速くすることに対しては意識が向いていませんでした。はっきり言えば、あきらめていました。取り組んでいたのは、体の開きを極限までおさえることでリリースポイント、いわゆる球の出所を見えにくく、それでいて内外角に正確に投げ分けるコントロールです。

速球、奪三振、投手としての「色気」は捨て、ひたすらにクオリティスタートに徹する、どんなコンディションでも試合は作る、そうして信頼を得てリーグ戦の登板機会を得られればという考えでした。

そうして上がったマウンド。夏の太陽が容赦なく照り付ける中で、バッターと向き合います。ここで驚くことがありました。バッターと勝負しているはずが、相手の広商ベンチが目と鼻

の先に感じるのです。

30人ほどの選手たちは全員立ち上がり、こちらを凝視。一球ごとに全員が腹から声を出します。

投球の癖、球種、けん制、すべてを見透かされているかのような、

その中で、必死に「自分のピッチング」に徹し、2試合とも、失点2程度で投げ切れました。

試合自体は、4試合とも敗戦だったと記憶しています。

試合後には、畠山先生のもとに出場選手が集められ、反省会です。

そこで、思いもかけない言葉がかけられました。

「先発の左の子、球に伸びがある。自信をもって良い・・・」

心に刺さりました。球速を捨て、コントロール重視→結果重視 で取り組んでいたはずのフォームは、

理にかなっていたようです。自分の取り組みの方向が間違っていないことがわかりました。

ほかに、どうやったら打者を打ち取れるのか、金属バットと木製バットの配球の違い、けん制のテクニックなど、さまざまな教えを受けました。

その内容もさることながら、私の中に芽生えたのは、「ひとりの投手として、この方々に認めていただけている」というこれまでになかった感覚でした。

いままで別世界だと思っていたところに、遅ればせながら足を踏み入れている・・・不思議な高揚感がありました。

最終日の朝、グラウンドにあいさつのために訪れると、ちょうど練習試合の前でした。

試合用の「HIROSHO」のユニフォーム、先輩方も口にされていましたが、初めて見るそのたたずまいは本当にまばゆくみえました。当時の広商は、往年ほどとはいかないまでも、まだまだ甲子園常連。上位進出も果たしていました。

その姿を目に焼き付け、合宿でのかけがえのない経験を心にしまい、グラウンドを後にしました。

直後の三商。やはり登板機会はありませんでした。

それでもその後、大きく飛躍する糧になった合宿。今も色あせない記憶として残っています。

交流を顧みて

昭和四十八年広島商業高校野球部主将
昭和五十二年法政大学野球部主将

平成元年〜平成七年広島商業高校野球部監督
現在 三菱重工業中国支社鉄鋼二課長 金光興 一一

一橋大学野球部創部七十五周年を迎えられましたこと、誠にめでたうございます。
東都大学野球連盟が結成された当初からの加盟と聞いておりますが、今日の東都大学野球連盟の繁栄を見た時、長年にわたり連盟を支えてこられました一橋大学野球部の功績は高く評価されるものと思います。

一橋大学と広商、両校の交流は昭和四十五年八月が最初ですので、私が広商に入学する前年からということになります。当初は、一橋大学野球部の広島での夏合宿の形で行なわれましたが、その後、長きにわたって、アウト・オブ・シーズン（十二月一日から翌年三月中旬迄の期間）にあたる冬の十二月に行なわれることになりました。高校生は大学生から勉強と人生観を学ぶ、大学生は広商との合同練習を通じ技量を高める、こうしたお互いを高め合う機会を得ることができましたことは、高校生にとっても大学生にとっても何事にも代え難い経験でありました。

私自身、選手時代三年間と監督時代六年間を通じ直接この交流に関わってきましたが、エピソードもたくさんありま

すが、その中から特に印象に残っていることを次に述べたいと思います。

一つ目は私の選手時代の昭和四十八年夏、甲子園での出来事です。この年、一橋大学野球部は広商での夏合宿を予定されておりました。私たちのチームは、春のセンバツ大会決勝で敗れた悔しさを晴らすべく広島県予選を制し、夏の選手権大会に臨んでおりました。一・二回戦を突破し、三回戦の大分県日田林工戦を目前にして大会が雨で順延したこともあり、宿舎で少々退屈していた時、当時、野球部の主将でありました原岡さんが突然宿舎に立ち寄られました。広島合宿に向かう途中であったようです。原岡さんは私たちが一年生の時から知っておりましたので、兄のように慕っていた部員も多かったと思いますが、一人一人と挨拶を交わし、一緒に朝食をとったあと雑談し、なごやかなひとときの時間を過ごしました。宿舎を立たれる時、原岡さんは「ぼくたちは二十三日まで広商で合宿している。二十二日といえば優勝戦だ。まだ、甲子園にいる君たちと会えないのが残念だが・・・」とハツバをかけられたことを今でも鮮明に覚えております。

結局、原岡さんの予言どおり私たちは全国制覇を成しとげたのですが、この原岡さんの突然の訪問は、雨でやや間伸びをさせていただいた私たちにとって大きな刺激と励みになりました。

二つ目は、夏選手権大会終了後、広商は新チームとなり、私たち三年生は次のそれぞれの目標に向かって毎日を通じてしていました。この年、一橋大学野球部の広島合宿は、夏に引き続き、二回目が十二月に行なわれました。主将の鈴木さん率いる大学生が広商に訪れ、新チームとの合同練習に汗を流していました。大学生は、高校生と同じメニューをこなすわけですから一日の練習が終われば相当な疲れが身体に残ります。当時、鈴木さんは、私の実家近くにありました木松旅館に泊まられておりましたので、広商での練習が終わって宿舎に戻ってこられる頃をみはかり、勉強を教えて下さいとよく部屋を訪ねたものです。しかし、よくよく考えてみると疲れきった身体で帰って来たばかりです。また、風呂にも入っていない時に行くのですから鈴木さんにしてみれば、かんべんしてと言いたい心境だったと思います。そ

れでも丁寧に勉強をそして、大学生活での心構え、人生のイロハを教えてもらい、この時のことは、その後の私の人生において貴重な教訓として生きています。

三つ目は、私は平成元年から七年までの六年間、広商の監督を務めました。その間、たくさんの大学生と出会うことができ、こうした交流が延々続けられていることのすばらしさを感じていました。

合同練習が始まる前、監督として大学生にひとつのお願いをしました。「練習メニューに手心は加えません。高校生と同じメニューをこなしてもらいます。技術については私の持っているものを全てをつぎこむので遠慮なくどんどんやってほしい。そして、高校生には、勉強はもちろんのこと世の中の動きや人生観等色々アドバイスをしてやってほしい。」とお互いが厳しく・楽しくやることから生まれてくる充実感や達成感を味わうことが狙いでありました。従って、練習内容は相当ハードなものになりました。大学生は皆、歯をくいしばってメニューをこなしていきます。次の日は筋肉がパンパンになり、立ったり座ったりするのもつらそうな顔をしていましたが、一日一日と過ぎていくと肉体的に慣れてきたのか表情にも明るさが見えてくるようになり、最初は一言もしゃべる余裕のなかった大学生が自分から技術的なことを聞いてくるようになりました。もちろん、私にだけでなく高校生たちにも色々アドバイスを受けている姿を見てると年令の差を超えた交流のすばらしさを感じたものです。そして何よりも大学生のひたむきに懸命に取組む姿は、ただ単に勉強を学ぶということだけでなく、グラウンドの中からも数多くのことを教えてもらったような気がします。個々には、その年々の主将でありました平成元年の祖父江さん、二年の菊池さん、三年の山下さん、四年の矢澤さん、五年の平田さん、六年の西村さん、それぞれ統率力を持ち合わせたすばらしい主将でした。また、シャープな動きをしていた谷口さん、豪快なスイングの栗原さん、犬飼さんと和田さんはキレのあるボールを投げ込んでいました。竹腰さんと倉田さんの魅力は、長身から投げ込む重そうで速いストレート、福島さんはキャッチャーの技術をマスターしようとして懸命になっていました。本当はもっともっとたくさんの大学生の印象を書きたかったのですが、正直なところ、私も、

今月も最後まで一球通信を読んでいただき、ありがとうございます。春季リーグ戦では無事に優勝し入れ替え戦出場へと進めることができたこと、大変嬉しく思います。ご支援・ご声援、誠にありがとうございました。私自身、運営として本格的に加わる初めての春季リーグでしたが、選手の冬の練習の成果を近くで見ることができたように感じ、喜びが大きいです。特に同期の活躍はマネージャー業の原動力にもなります。新しく加わった新生マネージャー4人とも、今後同じような気持ちを共有できれば嬉しいです。

リーグ戦に際して応援してくださったOB・OGの皆様、温かいお言葉を頂きましてありがとうございました。選手・マネージャーの励みとなりました。重ねて御礼申し上げます。3部昇格に向け部員一同精進して参ります。

今後とも硬式野球部へのご支援・ご声援のほどよろしく願いいたします。

一橋大学硬式野球部

2年マネージャー 浅川彩音



一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓

<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

↓ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで↓

hit.u.bbc.mg@gmail.com